

EU: 乳製品市場は不透明感が強く、価格調整局面が継続

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2025 年 9 月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会 9 月会合が、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、欧州連合(EU)の牛乳乳製品市場の近況として、①2025 年 1~7 月の生乳生産量は前年に比べて 0.4%減少したが、7 月は前年同期に比べて 0.7%増加したこと、②2025 年 7 月の生乳取引価格は 1 キロ当たり 52.9 ユーロセントとなり、前年同月より 13.6%上昇し、この 5 年間の平均を 25.8%上回ったこと、③直近の平均乳製品価格は低下しているが、脱脂粉乳を除き、この 5 年間の平均は上回ったことなどを報告している。また、2025 年における国際市況についても、主要輸出国・地域では生乳生産は再び増加に転じたが、世界全体の乳製品貿易量はほぼ横ばいであったことを報告している。EU では生乳価格は大きく変動していないものの、食料インフレが続き、地政学的紛争や貿易摩擦の不確実性により、市場の不透明感が強く、乳製品価格の調整局面が続いているとしている。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った。)

MMO 経済委員会の第 54 回会合は、2025 年 9 月 22 日に、以下のミルクサプライチェーンを構成する組織の専門家が参加して、ビデオ会議で開催された。

- COPA-CEGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会:生産者を代表)
- ECVC(ビア・カンペシーナの欧州組織)
- CEJA(欧州青年農業者協議会)
- EDA(欧州乳業協会:乳業者を代表)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合:乳製品貿易を代表)
- Eurocommerce(欧州商工会:小売業を代表)

会合での情勢報告と情報交換では、次の点が強調された。

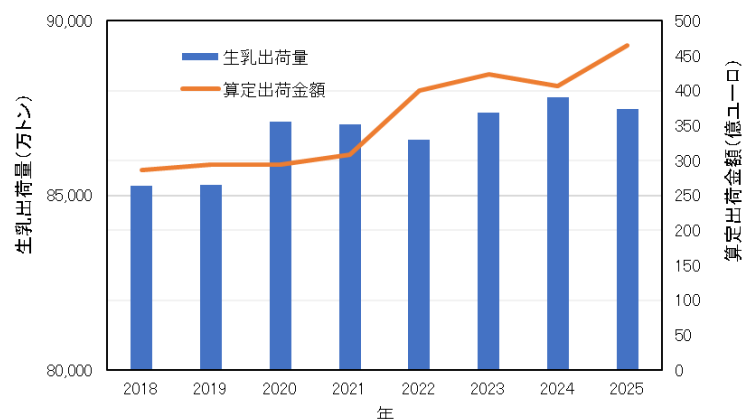
EU の 2025 年 1~7 月の生乳生産量はわずかに減少したが、2025 年 7 月は若干増加

EU の 2025 年 1~7 月の牛の生乳生産量は前年よりも 0.4%と、わずかに減少した(閏年調

整済)。一方、2025 年 7 月の生乳生産量は前年同期に比べて 0.7%増加し、4 ヶ月連続の増加となった。2025 年 1~7 月は約 8750 万トンの生乳が集荷され、算定出荷金額は 465 億ユーロを超え、前年同期に比べて 14.5%増加した(図 1)。

生乳出荷量は、バルト三国、ポーランド、ア

図 1: EU の 1~7 月の生乳出荷量と算定出荷金額



ルクセンブルクの数値は非公開のため、含まれていない。

出典: MMO economic board meeting report - 22 September 2025 (*1)を基に J ミルク作成

イerland、イタリア、デンマークなど EU 加盟国の一部の主要酪農生産国で増加し、ドイツ、フランス、ベルギー、エストニア、オランダでは減少した。

2025 年上半期の EU の乳製品の生産量は、脱脂粉乳とクリーム(−2.7%)、練乳(−9.9%)、飲用乳(−1.9%)が減少したが、チーズ(+0.7%)、全粉乳(+1.5%)、バター(+2.4%)など他のカテゴリーでは増加した。

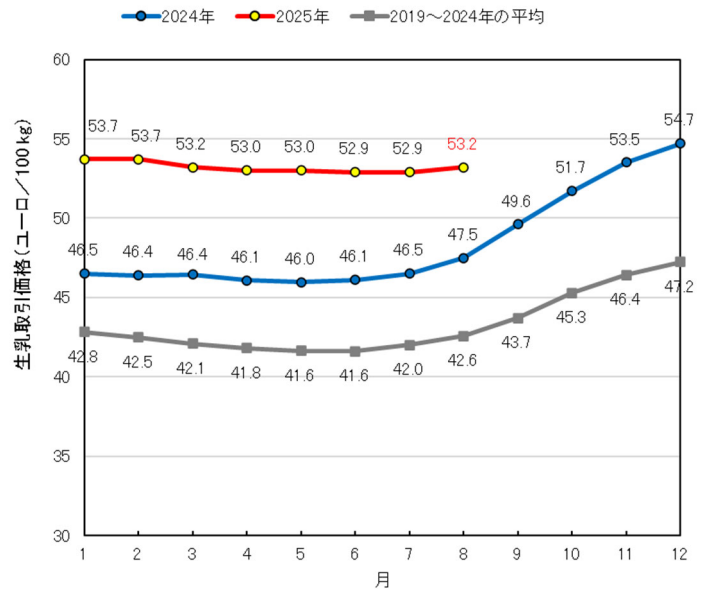
2025 年上半期の EU の生乳取引価格には大きな変動なし

EU の平均庭先(農場出荷)乳価は、2025 年上半期において大きな変動はなく、現在は、1 キロ当たり 52.9 ユーロセントとなっている。7 月の乳価は前年同期比で 13.6%上昇し、この 5 年間の平均を 25.8%上回った(図 2)。加盟国では、ルーマニアのみ乳価が前年より 1%下落した。EU の生乳価格の動きは、オセアニアや米国とは連動していない。

2025 年 7 月に集荷された生乳の 3.4%が有機であり、その内の 74.5%は加盟 4 か国(ドイツ、フランス、オーストリア、デンマーク)で生産された。EU の有機生乳の平均価格は 1 キロ当たり 61.0 ユーロセントであった。

飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は過去半年で低下しており、現在は 2024 年 7 月の水準を 14%下回り、2020 年 9 月以来の低水準となっている。

図2:生乳取引価格(EU加盟国平均)



出典: EU historical prices. Milk Market Observatory.

EU の直近の平均乳製品価格は低下しているが、脱脂粉乳を除きこの 5 年間の平均を上回る

EU の平均乳製品価格(2025 年 9 月 14 日)は前月よりも低下した。しかし、脱脂粉乳

表:EU 加盟国の平均乳製品価格(2025 年 9 月 14 日)

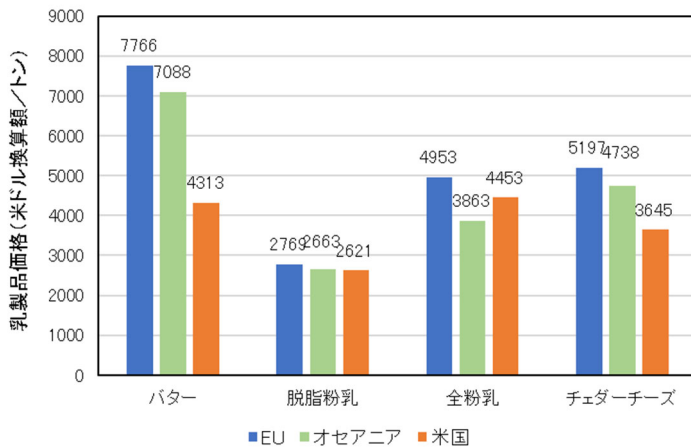
	バター	脱脂粉乳	全粉乳	チーズ				ホエイパウダー
				チェダー	エダム	ゴーダ	エメンタール	
価格(ユーロ/100 キロ)	644	232	406	445	477	492	631	97
価格の比較(増減%)								
1 週間前	-3.0%	-2.1%	-4.2%	+0.3%	+1.5%	+0.4%	-1.8%	-0.2%
1 か月前	-10.8%	-3.3%	-2.8%	-1.7%	-1.9%	0.0%	+2.9%	-0.6%
2025 年初	-13.0%	-11.0%	-8.0%	-1.0%	-4.0%	0.0%	+2.0%	0.0%
1 年前	-14.0%	-9.0%	-5.0%	+13.0%	+6.0%	+10.0%	+5.0%	+4.0%
5 年間の平均	+21.0%	-13.0%	+10.0%	+14.0%	+18.0%	+21.0%	+14.0%	+10.0%

出典: MMO economic board meeting report – 22 September 2025 (*1)を基に J ミルク作成

(-13%)を除き、この5年間の平均よりも依然として高い水準にある(前ページ表)。特にバターの価格(644 ユーロ/100 キロ、-10.8%)は、過去4週間で大きく下方に調整されたが、依然として高い水準にある(5年間の平均と比べて+21%)。

なお、三大輸出国・地域の中では、米国のバター、脱脂粉乳とチェダー、オセアニアの全粉乳の価格が、最も低くなっている(図3)。

図3: 世界の乳製品相場(2025年9月14日)



出典: MMO economic board meeting report - 22 September 2025 (*1)を基にJミルク作成

供給(国内生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品量に基づく EU 在庫レベルの評価では、脱脂粉乳在庫量(11 万トン)は、生産量の減少によって前年よりもわずかに減少した。バター在庫量(22 万トン)は、生乳出荷量の増加、生乳の脂肪含有量の増加と需要の減少などの要因によって、前年よりも増加した。チーズの在庫量(42 万トン)は、EU 域内需要と輸出が比較的好調であり、ここ数ヶ月増加しているものの通常的水準であり、前年より減少している。

世界の輸出国の大部分で生乳生産量が増加に転じる

世界の 2025 年の生乳生産量は再び増加に転じた。大部分の輸出国は、高い利益率、良好な気象条件、家畜疾病の影響が限定的であることなどから、増加の勢いをみせている。7 月までに、アルゼンチン(+11.3%)、ウルグアイ(+5.5%)、ニュージーランド(+2.1%)、米国(+1.9%)、英国(+5%)で集乳量が増加した。オーストラリアのみで、集乳量が 1% 減少した。

世界の 2025 年上半期の乳製品輸出量は、ほぼ横ばいであり、なかでも主要輸出国からの輸出は全て不振であった。世界の輸出は、チーズ、バター及びバターオイルが増加したが、粉乳は減少した。三大輸出国・地域(EU、ニュージーランド、米国)のシェアはわずかに減少したが、それでもなお輸出量全体の 83% を占めている。EU 全体の乳製品輸出は、2025 年上半期には低調であり、2%減少した。

2025 年の EU の乳製品輸出先の上位 5 か国は、英国、中国、米国、インドネシア、マレーシアであり、それらの国への輸出量のシェアは EU の輸出量全体の 38%であった。EU からの輸出増加率が最も高かったのはベトナム(+52%)、米国(+17%)、マレーシア(+16%)であり、減少率が最も高かったのはアルジェリア(-41%)とスイス(-3%)であった。

中国の乳製品輸入量は、7%増加した。世界の主要乳製品輸入国の上位 13 か国のうち、輸入量が減少したのはインドネシア、アルジェリア、フィリピン、タイ、サウジアラビアであった。EU の輸入量は年初から大幅に増加し、特にニュージーランド、ウクライナ、米国からの輸入が増加している。

EU では食料インフレが続く

一部の EU 加盟国では、家計の消費意欲は依然として低調である。EU の消費者は支出の

増加に慎重であり、ディスカウントストアや最も便利なチャネルを通じて購入している。消費者の3分の1が持続可能性を主な懸念として挙げているものの、2024年に比べて環境に優しい製品に支払うことへの関心は低くなっている。2021年から2025年にかけて、ユーロ圏では食料価格が42%、乳製品価格が43.4%上昇しており、その影響が大きい。

EU委員会は、短期的な見通しについて、家畜疾病のまん延、地政学的緊張、気候変動、一部地域の生乳生産量の減少、世界的な需要など、さまざまな要因を提示した。それらによると、EU域内の乳用牛の個体乳量は1.2%増加する一方で頭数は1%減少する可能性がある。この結果、生乳出荷量は2025年に0.15%と、ほぼ前年水準の横ばいで推移すると見込まれている。

地政学的リスクや貿易摩擦による不安から市場の地合いが変化

会議では、家畜疾病のまん延、オランダの買い取り制度(注1)、EUと米国間の貿易交渉の合意、ウクライナとの貿易協定の刷新、中国の反補助金調査、アイルランドとオランダのEU硝酸塩指令からの逸脱(注2)、森林伐採、固定費の上昇などの影響について意見交換が行われた。

全体として、地政学的リスクと貿易摩擦による不安があることで、市場心理は常に変化しやすい状況となっており、EUの乳製品価格は調整局面が続いている。

(注1) 窒素排出量の削減を目的に、酪農家に対して家畜の飼育を止めるよう促す政府の金銭的補償制度

(注2) 両国に適用されていた家畜排せつ物由来の窒素施用量規制の特例措置の制限

参考資料:

- 1) https://agriculture.ec.europa.eu/document/download/d0fc096d-b4c1-4164-b4e8-e13923e188c6_en?filename=mmo-report-2025-9-22_en.pdf

MMO economic board meeting report - 22 September 2025. European Commission.

(資料閲覧:2025年9月26日)

(担当:Jミルク 国際グループ)